

川西市立幼稚園と保育所のあり方について 検討のためのたたき台

1. 背景

(1) 老朽化と耐震対策

幼稚園は大正 13 年に私立幼稚園の鶴之荘幼稚園が開設され、その後、市立(村立)東谷幼稚園が昭和 18 年に開設されると、人口の急増に対応するように市立幼稚園、私立幼稚園が順次開設されていきました。市立桜が丘幼稚園や市立ふたば幼稚園、私立阪急北ネオポリス幼稚園の廃園などを経つつも、市立幼稚園と私立幼稚園は相互に補完・協力しながら、本市の幼児教育を支えてきたと言えます。

一方、保育所については昭和 24 年に市立(町立)川西保育所が開設され、平成 14 年に私立のちきゅうっこ保育園がオープンするまで、長く市立保育所のみが保育を担ってきた時代が続きました。その後、私立保育所の整備が進み、市立栄保育所の廃園を経て、現在では私立保育所の定員が市立保育所を上回っている状態となっています。

市立幼稚園・保育所共に、施設の老朽化が著しく、また、旧耐震基準で建設された建物については、耐震対策が必要なものもあります。

(2) 市立幼稚園児童数の減少と保育所待機児童対策

幼稚園について

市内に幼稚園は 17 園あり、定員の合計は 3,480 人です。この内、市立幼稚園は 9 園で定員は 1,370 人となっており、平成 26 年 5 月 1 日現在の入園児童数は 590 人です。このように市立幼稚園では、定員数に対し入園児童数が大幅に少ない状況となっています。

保育所について

市内に保育所は 22 園あり、定員の合計は 1,671 人です。この内、市立保育所は 8 園で定員は 600 人となっており、平成 26 年 4 月 1 日現在の入所児童数は 618 人です。

保育所の入所待機児童は、平成 26 年 4 月 1 日現在で 31 人、保護者が就労希望の児童を加えると 81 人となっています。このように保育施設の供給量は、需要量に対して不足しており、特に 3 歳未満児を中心とする待機児童対策が求められています。

(3) 子ども・子育て支援新制度

平成24年8月子ども・子育て支援法をはじめとする子ども・子育て支援新制度に関する法律が公布され、早ければ平成27年度から本格的に実施されることとなっています。

この新しい制度のポイントは、認定こども園・幼稚園・保育所を通じた共通の給付を創設することや認定こども園制度の改善、地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実となっています。

また、本格施行に先立って平成27年度から31年度を計画期間とする「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、乳幼児期の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業について、市町村が定める区域ごとに、量の見込み、提供体制の確保の内容及び実施時期を定めることとしています。

この子ども・子育て支援事業計画の策定においては、本市の就学前児童の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の利用希望をアンケート調査等により把握し、これを満たすための手法などを定めることとしています。これに合わせ市立幼稚園・保育所のあり方などについても検討するのが適当であると考えられます。

2. 市立幼稚園・保育所の現状と課題

(1) 幼稚園の現状

市立・私立幼稚園の設置状況												
【市立】												
幼稚園名	所在地	創立 (認可) 年月	園児数(H 2 6 . 5 . 1) (人・クラス)								定員 (人)	備 考
			3 歳児		4 歳児		5 歳児		計			
			学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数		
久代	久代2丁目	S30.4			2	32	2	43	4	75	180	
加茂	加茂1丁目	S30.4	2	46	2	34	2	45	6	125	170	平成24年度3歳児保育開始
川西	小花1丁目	S31.1			1	14	1	19	2	33	120	
川西北	丸の内町	S31.1			2	34	1	29	3	63	150	
多田	多田院1丁目	S23.7			1	28	1	24	2	52	150	
松風	水明台1丁目	S49.4			1	15	1	20	2	35	120	
清和台	清和台東2丁目	S45.4			2	35	2	44	4	79	180	
東谷	見野2丁目	S18.10			1	28	2	50	3	78	180	
牧の台	大和東1丁目	S51.4			1	21	1	29	2	50	120	
計			2	46	13	241	13	303	28	590	1,370	
*定員は川西市市立幼稚園規則に基づく数値												
【私立】												
幼稚園名	所在地	創立 年月	園児数(H 2 6 . 5 . 1) (人)								定員(人)	備 考
			3 歳児		4 歳児		5 歳児		計			
			学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数		
鶴之荘	小戸1丁目	T13.4	-	43	-	36	-	48	-	127	240	
親和	霞ヶ丘1丁目	S46.4	-	43	-	24	-	47	-	114	200	
藤ヶ丘	湯山台1丁目	S52.4	-	135	-	125	-	134	-	394	200	
緑台	緑台4丁目	S45.4	-	49	-	60	-	67	-	176	240	
清和台 めぐみ	清和台東4丁目	S50.4	-	70	-	61	-	68	-	199	310	認定こども園(幼保連携型)
新清和台	清和台西4丁目	S52.4	-	83	-	109	-	114	-	306	300	認定こども園(幼保連携型)
平野	水明台4丁目	S51.4	-	26	-	35	-	61	-	122	360	
美山	美山台3丁目	H2.4	-	72	-	73	-	80	-	225	260	認定こども園(幼保連携型)
計			-	521	-	523	-	619	-	1,663	2,110	

- ・市立幼稚園は9園で、定員合計は1,370人です。一方、私立幼稚園は8園で定員合計は2,110人です。
- ・平成26年5月1日現在の入園児童数は、市立幼稚園590人で定員に占める割合は43.1%で、私立幼稚園1,663人で定員に占める割合は78.8%となっています。
- ・市立幼稚園と私立幼稚園の入園児童比率は、概ね3:7となっています。
- ・平成23年度末をもってふたば幼稚園(加茂1丁目)が廃園となりました。
- ・平成24年度から市立加茂幼稚園で3歳児保育が始まりました。
- ・私立幼稚園では認定こども園の認定を受けた園は3園ありますが、市立幼稚園では認定こども園はありません。

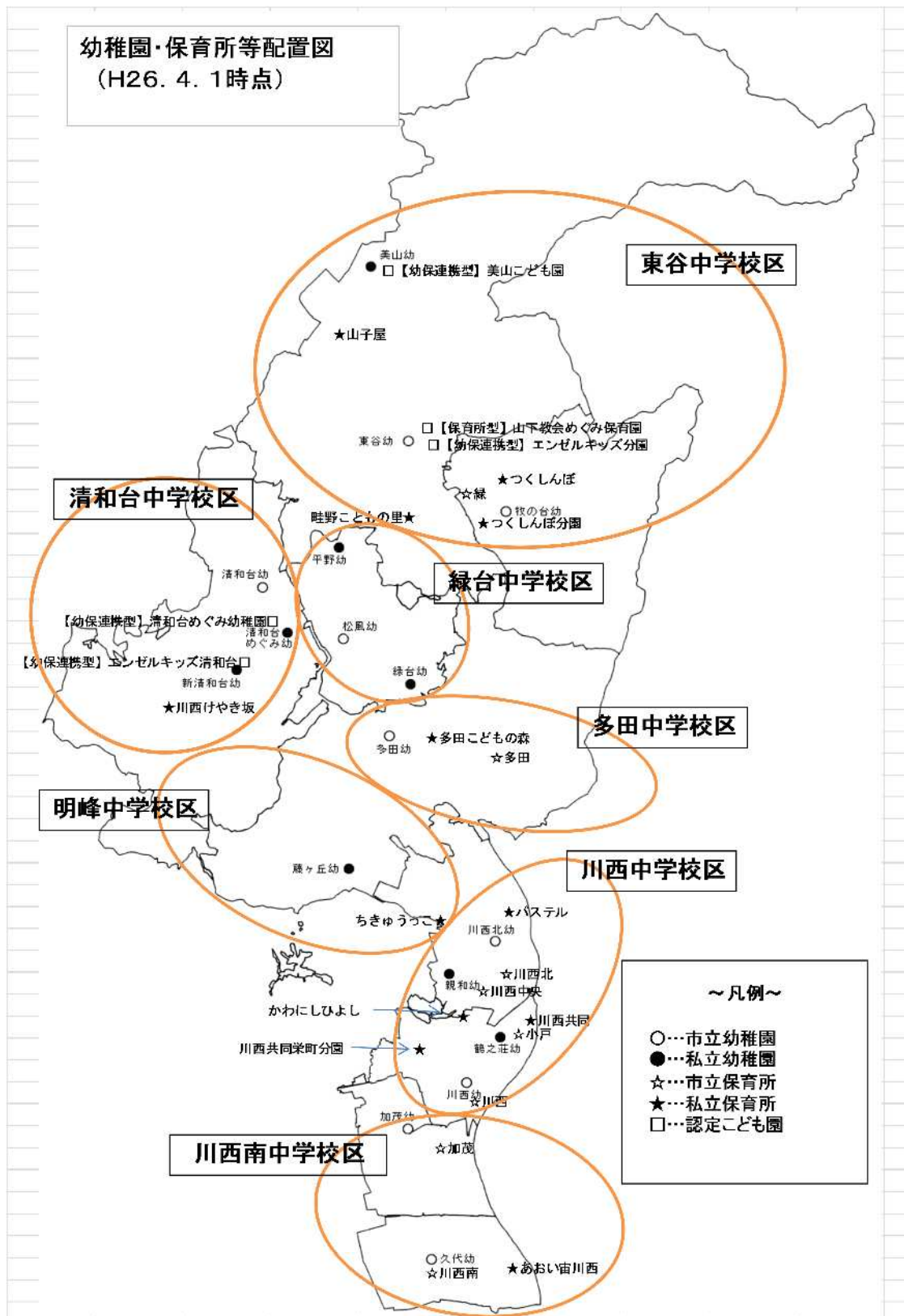
(2) 保育所の現状

市立・私立保育所の設置状況											
【市立】											
保育所名	所在地	開所年月	入所児童数（H26.4.1）（人）							定員（人）	備 考
			0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計		
川 西	栄根 1丁目	S 24.7	0	6	14	13	14	15	62	60	
川西北	出在家町	S 35.5	4	9	10	15	19	13	70	80	
川西南	久代 2丁目	S 38.5	0	16	16	17	18	21	88	80	
加 茂	加茂 1丁目	S 45.5	0	6	7	16	16	12	57	60	
緑	大和西 2丁目	S 49.5	0	9	9	15	15	17	65	60	
小 戸	小戸 3丁目	S 52.4	9	17	15	19	14	18	92	90	
多 田	東多田 1丁目	S 54.4	0	9	17	27	33	34	120	110	
川西中央	火打 1丁目	S 57.4	3	8	13	13	16	11	64	60	
計			16	80	101	135	145	141	618	600	
【私立】											
保育所名	所在地	開所年月	入所児童数（H26.4.1）（人）							定員（人）	備 考
			0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計		
ちきゅうっこ	萩原台西 1丁目	H14.4	9	21	26	30	28	27	141	120	
つくしんぼ	大和東 3丁目	H15.4	0	8	12	12	11	5	48	50	
つくしんぼ 分園	大和西 1丁目	H23.4	5	0	0				5	10	
川西共同	小戸 3丁目	H16.1	8	14	19	16	17	18	92	80	
川西共同 分園	栄町	H26.4	6	6	7				19	20	
バステル	滝山町	H16.4	10	23	24	25	27	29	138	120	
畦野こどもの里	東畦野 1丁目	H19.1	9	15	17	21	21	21	104	90	
かわにしひよし	中央町	H20.6	11	24	24	24	24	25	132	120	
多田こどもの森	新田 1丁目	H23.4	15	24	24	25	25	24	137	110	
川西けやき坂	けやき坂 1丁目	H23.4	8	15	18	18	16	19	94	80	
山子屋	一庫字区田	H23.4	1	3	4	4	5	5	22	24	
あおい宙川西	久代 6丁目	H24.4	14	17	18	17	10	8	84	90	
エンゼルキッズ 清和台	清和台西 4丁目	H23.4	4	15	19				38	45	幼保連携型認定こども園(保育所部分)
エンゼルキッズ 山下(分園)	見野 2丁目	H24.4	3	6	7				16	20	幼保連携型認定こども園(保育所部分)
山下教会	見野 2丁目	H26.4	1	1	4	6	3	2	17	20	保育所型認定こども園
清和台めぐみ	清和台東 4丁目	H26.4	0	4	3				7	30	幼保連携型認定こども園(保育所部分)
美山保育園	美山台 3丁目	H26.4	4	6	7				17	42	幼保連携型認定こども園(保育所部分)
計			108	202	233	198	187	183	1,111	1,071	
市立・私立合計			124	282	334	333	332	324	1,729	1,671	

*他市からの受託児童を含む。

- ・市立保育所は8園で、定員の合計は600人です。一方、私立保育所は14園(3分園)で、定員の合計は1,071人です。
- ・平成26年4月1日現在の入所児童数は、市立保育所では618人で、定員に占める割合は103.0%となっています。私立保育所は1,111人で、定員に占める割合は103.7%となっています。
- ・市立保育所と私立保育所の入所児童比率は、概ね4:6となっています。
- ・平成21年度末をもって栄保育所(栄町)が廃園となりました。

(3) 市内幼稚園・保育所・認定こども園の配置状況



- ・市立幼稚園は通園区を設定し、市内各所に9園配置されています。
- ・私立幼稚園の8園は、通園バス等の活用により市内外から児童が通っています。
- ・保育所は、川西中学校区を中心として南部地域に集積しています。一方、北部地域の内、中学校区別に見ると緑台中学校区には配置されていません。

(4) 市立幼稚園と保育所の課題

施設の老朽化への対応

市立幼稚園の園舎は、建設から38年～47年が経過しており、市立保育所は32年～48年が経過しています。施設の老朽化が著しく、大規模改修が必要です。

耐震対策の早期実施

Is値が「0.7」を下回り、耐震対策が必要となる施設は市立幼稚園で全9園中5園、市立保育所で全8所中2所(耐震診断が未了の施設は、他に2所あります。)

市立幼稚園・保育所施設の構造等・建築後経過年数・Is値等							
市立幼稚園				平成26年4月現在			
幼稚園名	構造	階数	延床面積	建築年度	経過年数	Is値	耐震対策
久代幼稚園	RC	2	718㎡	S44・49	45年	0.54	要
加茂幼稚園	RC	2	613㎡	S45	44年	0.69	要
川西幼稚園	RC	2	944㎡	S42	47年	0.37	要
川西北幼稚園	RC	2	644㎡	S47・50	42年	0.73	
多田幼稚園	RC	2	705㎡	S49	40年	0.79	
松風幼稚園	RC	2	640㎡	S49	40年	0.48	要
清和台幼稚園	RC	2	593㎡	S45・52	44年	0.34	要
東谷幼稚園	RC	2	596㎡	S51	38年	0.79	
牧の台幼稚園	RC	2	596㎡	S50	39年	0.79	
市立保育所							
幼稚園名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	経過年数	Is値	耐震対策
川西保育所	木造	1	337㎡	S41	48年	-	診断未実施
川西北保育所	RC	1	450㎡	S49	40年	0.68	要
川西南保育所	RC	1	450㎡	S45	44年	0.95	
加茂保育所	鉄骨造	2	332㎡	S45	44年	-	診断未実施
緑保育所	RC	2	331㎡	S48	41年	0.47	要
小戸保育所	RC	1	546㎡	S51	38年	0.95	
多田保育所	RC	1	546㎡	S53	36年	1.25	
川西中央保育所	RC	1	453㎡	S57	32年	-	

川西中央保育所は新耐震基準による建物であるため耐震診断を行っていません。

Is値とは、構造耐震指標のことをいい、地震力に対する建物の強度、靱性(じんせい:変形能力、粘り強さ)を考慮し、建築物の階ごとに算出します。「建築物の耐震改修の促進に関する法律(耐震改修促進法)」の告示により、震度6～7程度の規模の地震に対するIs値の評価については以下の様に定められています。

- ・ Is値が0.6以上 倒壊、又は崩壊する危険性が低い
- ・ Is値が0.3以上 0.6未滿倒壊、又は崩壊する危険性がある
- ・ Is値が0.3未滿 倒壊、又は崩壊する危険性が高い

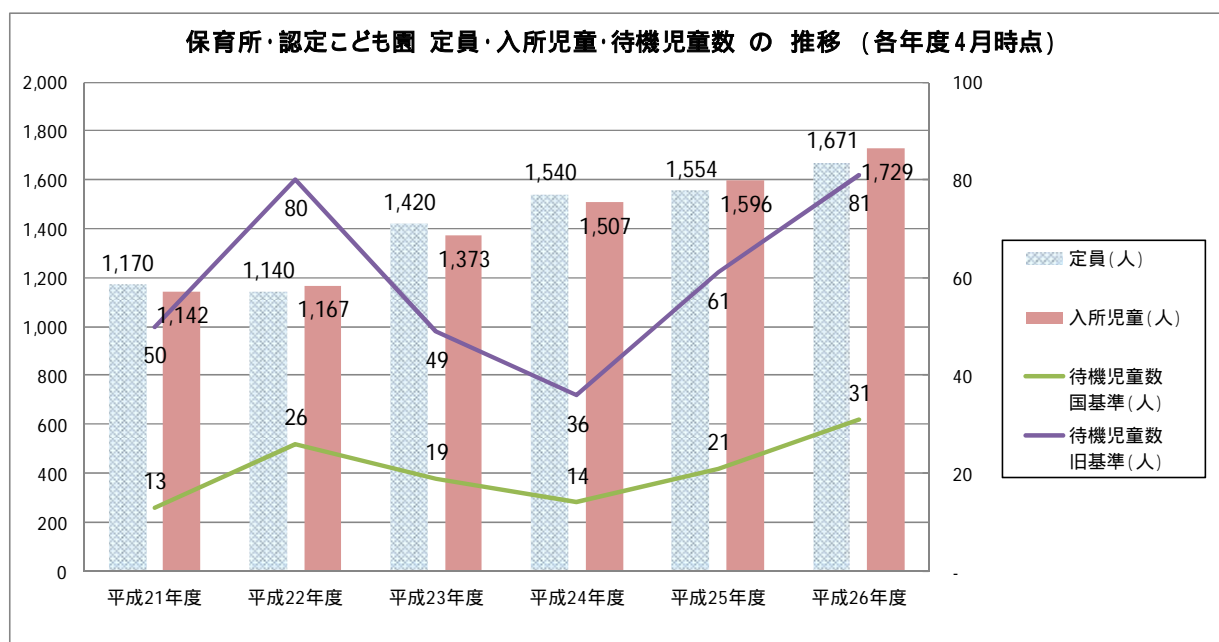
なお、幼稚園等について、文部科学省の「公立学校施設に係る大規模地震対策関係法令及び地震防災対策関係法令の運用細目」によりIs値がおおむね0.7に満たないときは要補強建物判定とされます。

保育所についてもこれを準用し、Is値0.7未滿のものについて耐震対策を要するとしています。

保育所待機児童の解消

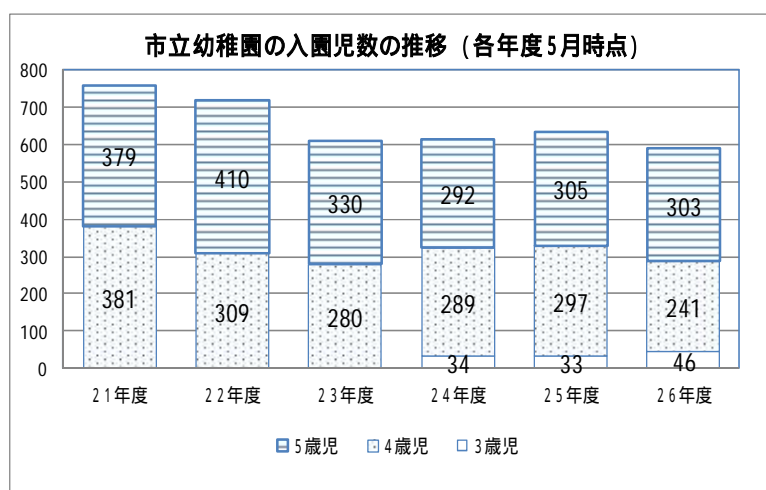
私立の認可保育所の整備など、平成 21 年度から 26 年度にかけて概ね 500 人分の定員増を実施し、待機児童の解消に努めてきましたが、現在も解消には至っていません。平成 26 年 4 月の待機児童数は 31 人(就労希望の者を含めると 81 人)で、年度末には 100 人を超えると見込んでいます。

今後、児童数は減少する見込みですが、保育需要は増嵩が予測され、これに的確に応えていかなければなりません。



市立幼稚園在籍児童の減少

平成 26 年 5 月での市立幼稚園の定員は 1,370 人で在籍児童数は 590 人、定員に占める割合は 43.1%です。最も在籍児童数の少ない園は川西幼稚園で定員 120 人に対し、在籍児童数は 33 人、在籍割合は 27.5%。最も在籍児童数の多い園は加茂幼稚園で定員 170 人に対し、在籍児童数は 125 人、在籍割合は 73.5%となっています。



対し、在籍児童数は 125 人、在籍割合は 73.5%となっています。

平成 24 年度から加茂幼稚園で 3 歳児保育を開始したことなどにより若干の増加はありましたが、市立幼稚園への入園児童数は減少傾向にあります。

3. 市立幼稚園・保育所のあり方に関する検討課題

論点1 市立幼稚園・保育所の役割についてどのように整理するか

市立幼稚園・保育所には、長い歴史と豊かな経験があり、これにより培われた高度で質の高い教育・保育を、通園(所)する児童に提供しています。

また、やや偏在はあるものの、ほぼ市内の各地域に施設が配置され、それぞれの地域における就学前児童の教育・保育の施設として、大きな役割を担うことが期待されています。

このようなことなどから、市立幼稚園・保育所については、私立幼稚園・保育所と相互に協力しつつ、互いに補完し、市立の教育・保育施設として、必要とする全ての児童に対し、良質な教育・保育を提供する基盤となる役割を担う必要があります。

さらに、ひとり親家庭など様々な困難を抱える家庭や、障がいやアレルギーなど特別な支援が必要な児童を積極的に受け入れるほか、一時預かり事業や子育て相談を実施するなど、多様な教育・保育ニーズに応え、地域における教育・保育、子育て支援の拠点としての役割を果たしていく必要があります。

論点2 耐震対策や老朽化対策等が必要な市立幼稚園と保育所を、一体的に整備等することについてどう考えるか

施設の老朽化への対応

耐震対策の早期実施

保育所待機児童の解消

市立幼稚園在籍児童の減少

これらの課題の抜本的な解消を図りつつ、質の高い教育・保育の提供や子どもの安全・安心の確保、地域の子育て支援の充実などを図る必要があります。また、財政的な負担を極力抑えることも重要な要素です。

